

ひめゆり 通信

第150号

2017年2月25日号

<http://hozanji-wel.org/>

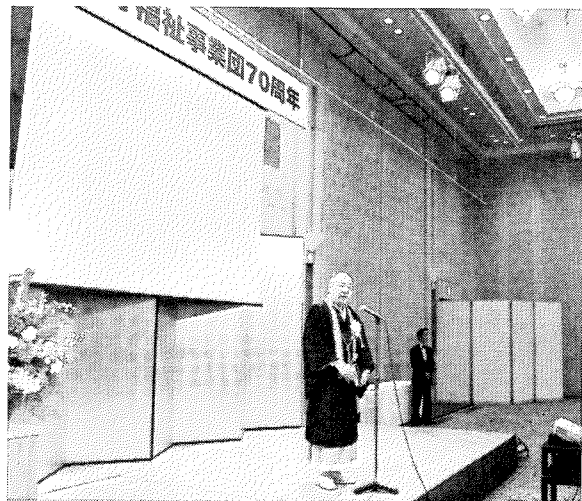
主な目次

- 巻頭言 1
- 法人70周年記念式典 2
- 第20回法人研究発表会 4
- 高齢者施設からの報告 6
- 児童施設からの報告 9
- ボランティア懇親会からの報告 13
- 法人主任研修 14
- 福祉避難所体験より 18
- 法人永年勤続者・全国表彰者 19

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

「定款に法人の基本理念を明記」

宝山寺福祉事業団理事長 辻村 泰範



一月十六日付で本法人の定款変更の認可が下りた。本誌でも既に紹介していたことではあるが、法律改正に伴い全ての社会福祉法人はその基本規定である定款を変更し、組織体制と経営原則を一新することとなった。幾つかの重要な変更点があるので紹介する。

評議員会はこれまでの諮問機関から議決機関となり、毎年度六月に開催する定時評議員会において決算を承認すること、理事と監事を選任すること等が主な役割となった。任期はこれまでの二年間から四年間となるとともに理事との兼務や施

設職員との兼務が認められなくなったので、現在の評議員の方々の人選を見直すことになる。新定款では評議員の定数を十人以上十三人以下と規定している。定数では二名の減員とした。

理事会は法人の執行機関として位置付けられている。任期は二年間で定数は九人に変更した。理事定数では二名の増員である。理事長の他に業務執行理事（副理事長）を置くことができることとした。

新たに会計監査人を置くことになった。当法人の経営規模から監査法人を指名して会計監査人とし、毎年法定監査を受けることが法律上義務付けられたのである。従来の監事さんとは別に公認会計士による会計監査や内部統制システムのチェックを受けるようになり、情報開示もこれまで以上にレベルアップを求められることになる。

四月一日からは新しい組織と体制がスタートする。法人としてこの改正をしっかりと受け止め対応して行くことにする。これらは法律改正に伴っていわば義務付けられた範囲の事柄であるが、今回の改正で我が法人として特に紹介しておくべきは、法人の目的及び基本理念の書きぶりを変えたことである。

定款第一章総則（目的及び基本理念）第三条に「この法人は、真言律宗宗祖興正菩薩叡尊がかかげた立宗の精神「興法利生」を基本理念とし」と定款上に基本理念としての興法利生を明記したことである。

これまでは国が示す定款準則に基づいて文言も強く規制されてきた経緯があり、最初の定款では「宗祖立宗の精神に基づき社会福祉事業を行う」とされていたものがその後の定款変更の際に削られてしまった。今回それが緩和されたので新たに明確にした次第である。宝山寺福祉事業団という法人や事業の創設の経緯を紐解けば、それが日本の社会福祉事業の先駆者の一人である鎌倉時代に活躍した興正菩薩叡尊上人の慈悲行に由来することがはつきりしているのであるが、定款では明らかになっていなかった。折しも昨年に明確にうたったのである。折しも昨年宝山寺社会事業部創設七十周年を迎え、一月十三日に七十周年記念式典を催したばかりであった。

今年は興正菩薩の高弟忍性菩薩の生誕八百年の記念の年になる。忍性菩薩も興正菩薩叡尊と同様にあるいはそれ以上に貧窮孤独の人々の救済に活躍した僧侶であった。昨年は夏に奈良国立博物館で、そして年末にかけて鎌倉の金沢文庫で忍性特別展が開催されてその事跡が紹介された。興法利生を宗とする我が真言律宗にとって、この貴縁を喜びたい。

法人70周年記念式典

祝 宝山寺福祉事業団70周年



宝山寺福祉事業団の前身である宝山寺社会事業部が滝寺に愛染寮を創設して、昨年10月10日に70周年を迎えました。その記念事業として、11月12日には宝山寺金剛殿において慶讃法要と慶讃奉納太鼓を、そして1月13日には、ホテル日航奈良において記念式典を開催させていただきました。

記念式典に先立ち、プロローグスライドとして慶讃法要や慶讃奉納太鼓の様子を見ていただきました。開式の挨拶では辻村泰範理事長が、初代寮長である故辻村泰圓師の日誌を朗読しながら、当時おられた高野山から下山し、その翌日には滝寺を戦災孤児たちの我が家にすべく、当時のGHQをはじめ各種関係機関に奔走されたことなどを紹介させていただきました。

式典には、愛染寮を巣立った方をはじめ、公私ご多用にもかかわらず多くの方にご臨席いただきました。

が、その代表としまして浪越奈良県副知事、仲川奈良市長、小紫生駒市長にご祝辞を賜りました。特に浪越副知事は、生駒のご出身で、いこま保育園の卒園児であることや小紫市長も法人施設との関わりを織り交ぜながらのご祝辞を頂戴しました。長きにわたり福祉事業をしてきたからこそ、このようなご縁があったのではないかと感じる瞬間でした。

引き続き、法人の総裁でもあり、真言律宗管長 大本山宝山寺貫主 大矢実圓猊下に乾杯の発声をいただき、祝宴へと進めてまいりました。



◀奈良県副知事 浪越照雄様



▶奈良市長 仲川げん様



◀生駒市長 小紫雅史様

祝宴中は懐かしい顔ぶれが揃い、思
い出話に花が咲きました。また会場
では、各種別の垣根を越えた話をさ
れている中、愛染寮寮長と延寿施設
長がテーブルをまわり、愛染寮創設
期を知る方、法人や各施設にご縁の
ある方々に、心温まるスピーチをい
ただきました。その中には、数年前
に我が家である愛染寮を巣立ち、今
はあすなる会の若きホープも緊張し
た面持ちで、寮を離れても寮のこと
を想い、寮で生活をしている子ども
たちのことを想っている言葉とその
姿には、感動を覚えました。そして
各界の方々からの祝電やお祝いの
メッセージも披露させていただきま
した。

宝山寺大矢実圓貫主



宝山寺福祉事業団 安井宏一理事



愛染寮 辻村峯子名誉寮長



10年間を紹介させていただき、ま
た、通常であれば各施設の事業紹介
であったり、保育や介護に焦点を合
わせていたりする映像が多いと思い
ますが、今回は少し趣向を変えて
『The Pride of Hozanji』と題して、
現状の職員状況を織り交ぜながら、
今法人で働いている職員の姿に焦点
を当てた映像をご覧いただきまし
た。映像には、子どもや高齢者に真
剣な面持ちで向き合い、そして笑顔
に満ち溢れた表情の職員が映ってお
り、職種を問わず全ての職員が、施
設の法人の屋台骨になっているのだ
と感じられる映像でした。

懐かしく、楽しい時間は早く過
ぎ、祝宴の最後を締めくくるのは、
やはり『愛染寮の歌』です。そして
今回出席がかなわなかった、愛染寮
草創期から長く法人を支えて来ら
れた方からのお手紙の紹介もあり、
いよいよフィナーレへと会
場は盛り上がっていきました。
『愛染寮の歌』これも映像を
駆使し、愛染寮の開寮式の写真
から始まり、今はなき懐かしい
建物、歴代の寮長や理事長の若
かりし写真など、セピア色か
らカラーへと時空を超えた歴史
を感じられる映像に『寮の歌』
の歌詞を載せながら、声高らか
に。当初は映像をご覧いただく
ために各席にて歌っていただく
予定でしたが、やはり『寮の
歌』気持ちが一番になるのか、
子どもたちは峯子おかあちゃん
を囲みステージに勢ぞろい、『寮
の歌』ではなく、『わが家の歌』を
歌っている姿には、法人70周年のお
祝いがあたたかみ、わが家の古稀の祝
いをしているかのように
見えました。そこに花を
添えるかのように、女性
施設長の和装による晴れ
着姿もあり、華やかに記
念式典と祝宴は幕を閉じ
ました。

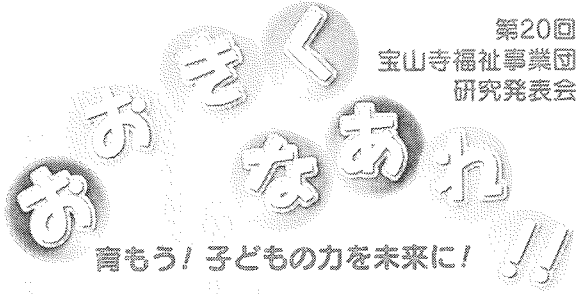
「興法利生」の精神を
持ち数名の職員で始まっ
た宝山寺社会事業部と愛
染寮。そして70年の年月



が流れ、宝山寺福祉事業団となり、
今は730名の職員が在籍する法人
へと成長しました。これも多くの
方々のご理解とご協力、心温めるご
支援があったからだと思えます。こ
れからも「興法利生」の精神を忘れ
ず、法人の持つ資源と感性を地域に
発信してまいりたいと思えます。
記念式典の開催にあたり、不手際
等があったかと思えます。書面をも
ちまして、お詫び申し上げますとと
もに、今後ともご指導ご鞭撻のほど
よろしくお願いいたします。

第20回 法人研究発表会

第20回
宝山寺福祉事業団
研究発表会



育もう！子どもの力を未来に！

平成29年1月29日

◆開場：12時15分～ ◆開会式：12時45分～

奈良市ならまちセンター

奈良市東寺町38番地 近奈良駅より徒歩約10分、JR奈良駅より徒歩約15分

第1部 職員による発表 12時50分～15時

- 発表1 福楽坊保育園 [運動好きの子どもを育てるために] ～楽しく運動ができる環境づくりについて～
- 発表2 児童発達支援センター 仔細園 [子育て力を高める] ～ホームページプログラムの活用～
- 発表3 児童発達支援センター あすなろ [児童発達支援の中で社会性を育てる遊び] ～保育計画プロジェクト6年の歩み～
- 発表4 ポスターセッションプレビュー (口頭発表)

休憩 15時～15時30分 (ロビーにてポスターセッションコアタイム)

第2部 講演会 15時30分～16時30分 「菩薩の道」 元興寺 住職 辻村 泰善師
開 会：16時40分

◆主催 社会福祉法人 宝山寺福祉事業団
◆協賛 奈良県、奈良市、生駒市、奈良県社会福祉協議会、奈良市社会福祉協議会、生駒市社会福祉協議会
◆協賛 奈良県児童発達支援協議会、奈良市児童発達支援協議会

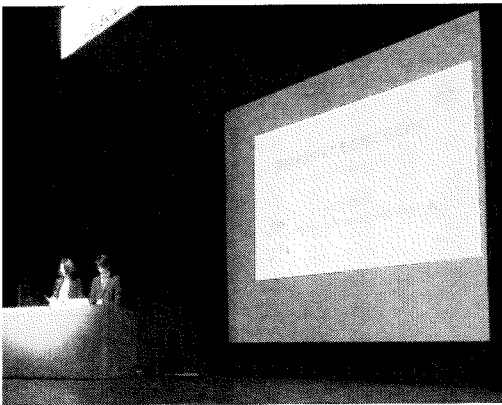
◆お問い合わせ先
社会福祉法人 宝山寺福祉事業団事務局 TEL.0743-74-1172
〒630-0257 生駒市元町2丁目14-8 https://hozanji-wel.org FAX.0743-74-1911

平成29年1月29日に奈良市ならまちセンターにて第20回法人研究発表会を開催致しました。
また、前日は法人研究発表会のプレイベントとして、映画「忍性」の上映会を開催いたしました。秋原北胤監督や主演の和泉元彌さんに舞台挨拶もいただき、衆生救済活動に尽力した忍性菩薩の一端に触れる良い機会となりました。

今年度は、「おきくなあれ 育もう！子どもの力を未来に！」を大会テーマとして児童部門3施設からの発表と、法人各施設が取り組んでいる業務実践をポスター形式で発表し、多く

の方々にご覧いただきました。第二部では、「ぼさつの道」と題し、真言律宗 元興寺住職 辻村泰善師に講演していただきました。

発表1は、極楽坊保育園から「運動



運動好きの子どもを育てるために～楽しく運動できる環境づくりについて～ (極楽坊保育園)

好きの子どもを育てるために「楽しく運動できる環境づくりについて」発表されました。

幼児の運動能力調査を実施し、子どもの姿を浮き彫りにしていくことで、見えたものを踏まえて、保育園での関わりや家庭での関わりを工夫し子どもの運動意欲を高めることをねらいにされていました。

実態調査の結果から一例をあげると、25m走の値が低かったのは、全力で走る経験が豊富でないためということが見えてきました。この結果を基に『全力で走ろう』に取り組みました。子どもたちはこの活動を通して、最後まで走りぬくことや勝ち負けを意識して頑張る姿が見られるようになりました。また、発達に応じた走る遊びとしてしつぽとりや鬼ごっこに取り組みむことで、走る楽しさを味わい、子どもの走りたいという意欲につながっていきます。

ました。

親子の運動遊びでは、保護者が子どもの変化から、子どもの体と心の成長を感じるという感想が多く寄せられました。

子どもの姿を丁寧に見ることが子どもにあった取り組みにつながり、保育園と家庭が連携して、子どもが楽しく体を動かせるように工夫されています。そしてこのような活動が、子どもの達成感や意欲につながっていることがわかる報告でした。

発表2は、児童発達支援センター仔細園から「子育て力を高める」ポータルプログラム「子育て力を高める」について発表されました。

ポータルプログラムは、保護者とともに子どもの成長や発達を促す指針の一つとして保育に組み込まれています。このポータルプログラムのチェックリストを通して、家庭での子どもの姿を知ることができ、一人ひとりの子どもにあった指導目標が立てられます。

課題選びについては保護者の思いに寄り添いつつ、保育者が専門的な立場から課題を設定していきます。ただ、入園間もない子どもの様子を知らず期間が短く、課題選びが難しいです。でも、保護者との信頼関係を築くことで子どもの姿がより見え、子どもにあっ

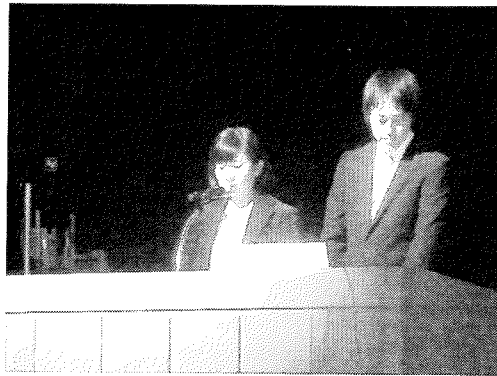


子育て力を高める～ポータープログラム
の活用～（児童発達支援センター仔鹿園）

た課題をスモールステップで設定して
いけるようになります。そして、保護
者も回数を重ねることで子どもへの関
わりかたがわかり、課題に取り組む意
識が高くなります。保護者と保育者が
子どもの姿を共通してとらえること
が、子どもの成長につながり、子育て
力を高めていくことになるという報告
でした。

発表3は、こども支援センターあす
なるから「児童発達支援の中で社会性
を育てる遊び」保育計画プロジェクト
のとりくみ」について発表されまし
た。

あすなるに並行通園している5歳児
の子どもたちは、認知適応はほぼ年齢
相応の発達ですが、言語社会では少し
幼さがみられます。この社会性に
絞って、ねらいや遊びの内容を考え、具
体的な取り組みが紹介されました。例
えば、ペア遊びやグループ活動を積み



児童発達支援の中で社会性を育てる遊び～
保育計画プロジェクトのとりくみ～（こども
支援センターあすなる）

重ねることで、自分と相手の違いを感
じ、葛藤しながら相手と思いが通じた
時に「一緒に」を楽しめるようになって
たという事例があげられました。

仲間を通して培われる社会性は、『あ
すなる保育指針』を、毎日の保育の中
で見直し、子どもの姿にあわせて変化
させていくことで、豊かな生活と遊び
が育まれていくという報告でした。

また、ホール外のホワイエで行われ
たポスター発表では、サービスマン・処遇
向上、業務改善、組織活性化、施設改
善、地域連携などのさまざまな取り組
みを、法人各施設から21の発表があり、
どれも興味深く、日々の業務の中での
努力の積み重ねや成果が見え、参考に
なるという意見も多くありました。

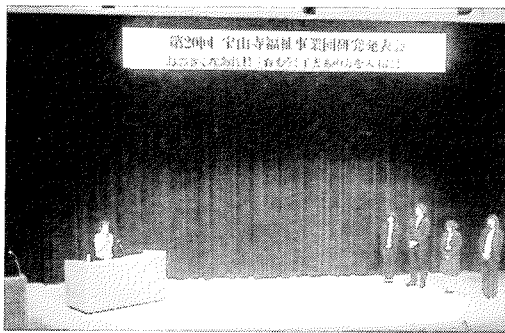
講評は、元帝塚山大学 心理福祉学
部地域福祉学科の才村眞理先生にお願
いいたしました。

才村先生からは、まず、発表のパワー

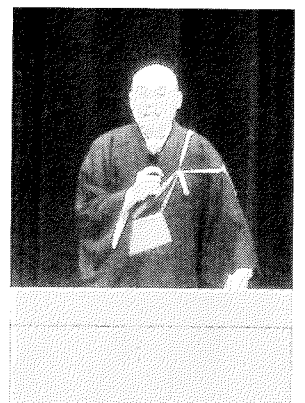
ポイントやポスター発表のポスターが
とても見やすく出来ており、普段の業
務で忙しい中、テーマを決めて取り組
まれていたのは素晴らしいとお褒めの
言葉を頂きました。

各施設からの発表については、それ
ぞれに具体的なお話を通して次への課
題を明確にしてくださいました。

第二部の講演では、ご住職が直近に
折好くインドへ行かれ、お釈迦様所縁
の地を巡られて感じられたことなど交
えながら、悟りをひらかれるお釈迦様
についてお話してくださいました。そ
して、「自分より先に一切衆生を救う
ことを優先することが、自分の成仏を
求めることにつながる」という、仏教
福祉の精神の基になる「大乘仏教」に
ついて話されました。



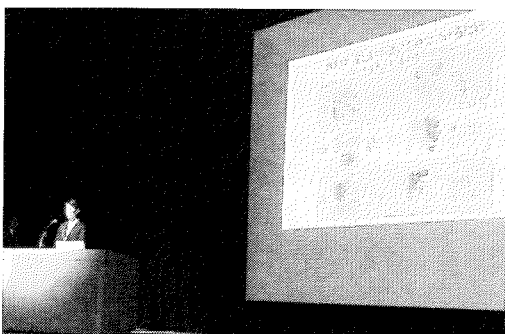
才村先生による講評



真言律宗 元興寺
辻村泰善ご住職

古き時代から行基菩薩・興正菩薩・忍
性菩薩と呼ばれた仏教福祉の先駆者が
示された道を、所縁の地奈良で、私た
ちは法人理念でもある興法利生の精神
をたずさえて、福祉の担い手として
しっかりと歩んでいきたいとあらため
て思いました。

今回の研究発表会が高齢者部門で
す。どうぞご期待ください。



ポスター発表（いこま乳児院）

高齢者施設より

下半期報告

デイセンター延寿

『去年一年を振り返って』

主任相談員 井上 貴 至

デイセンター延寿では、ご利用者の心身の健康を図る取り組みを行っています。

選択レクリエーションの1つである体操のメニューを増やしました。従来からの全身のストレッチ、上下肢の筋力トレーニングから、さらに上肢のストレッチと筋力向上が見込める「棒体操」、身体を動かしながら歌あり計算ありといった楽しめるプログラムで脳の活性化を図る「座って行う脳の活性化体操」の2種類を増やし、担当できる職員の育成も図りました。

体操同様、選択レクリエーションの1つである創作活動も従来からの塗り絵や折り紙を作るだけでなく、「家に持って帰って飾っていただける」ように表装や色紙に工夫を凝らしました。これにより参加されるご利用者数も増え、好評をいただいています。

施設内研修では研修委員が中心に内容の充実化を図ってきました。送迎時の安全を重視する為、添乗員を対象に車の構造上の死角を減らすという内容、運

転手には運転上の性格や注意の傾向についてチェックシートを用いて自己診断を行う安心安全運転研修を行いました。また働く職員の健康づくりの為に、腰に負担をかけないケアの姿勢やストレッチ、体幹トレーニングといった腰痛予防に特化しました。

今後より良いサービスの向上に繋げていきたいと考えます。



集中！脳健体操

デイセンター寿楽

「今年度を振り返って…」

リーダー生活相談員 下西 直子

振り返れば、課題山積の1年だったように思います。

2前から取り組んだ選択レクリエーションでは、手作業・ゲーム・カラオケをその日の利用者の好みで組み合わせ、提供しておりますが、なかなかスムーズにいかないこともあり、1フロアで複数のレクリエーションをする難しさを痛感させられ、悩んだ1年でもありました。

利用者の重度化に伴い2つしかないベッドに優先順位で寝て頂くという状況でした。ベッドを必要とする方が増えた為、ソファベッドをフル活用するなど駆使しましたが、ベッド数を増やす必要性に迫られています。また、ターミナル期の方も増え、急変に備え、常に利用者の状況確認をする必要性がありました。職員全員が慌てず対応できるよう、急変時対応や医療知識の勉強会を施設内研修として取り入れました。

1階で行っていた個別機能訓練は「しんどい」と拒否される方が多くなりました。車椅子対応の方がフロア内での移動時、出来るだけ職員と一緒に歩行して頂くなど生活リハビリを重視しましたが、個別機能訓練の内容の見直しが必要となり、課題の一つにもなっています。

今後も職員一丸となり、個々に合わせたサービスが提供出来るよう取り組んでいきたいと思っております。



梅寿荘

平成28年度の振り返り

主任介護支援専門員 黒川 美穂

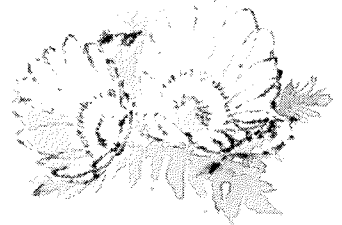
今年度梅寿荘は、「地域の重要な福祉拠点として活動し、発信する」を目標に掲げ、ご利用者やご家族はもちろんですが、関係者や地域の皆様にも「梅寿荘」を知っていただくための活動を中心に行いました。

そのための活動として、門前町自治会で行われた徘徊模擬訓練に地域の一員として参加したり、福祉避難所体験会の実施にて地域の方々と交流し、施設のことを知ってもらうと同時に地域の方の疑問や不安に感じてもらえることについても意見交換ができました。また、以前から来ていただいているボランティアの方々に加え、昨年度に引き続き生駒市市民活動推進セン

ターに協力依頼し、新しいボランティアの方を受入れ、行事のお手伝いをしていただくことで、ボランティアの方々には、行事を通じて施設の取り組みも発信することができました。

そして、独居や認知症高齢者の増加で、急な事情により自宅で生活することが困難になった高齢者を受け入れる緊急ショートステイの利用も多かったように思います。

次年度も、既存の福祉サービスの提供だけではなく、施設の強みを発揮しながら地域のニーズに応えられるようにしていきたいと思っています。



梅寿荘デイセンター

『去年を振り返って、来年に備える』

主任生活相談員 酒井 貞宗

今シーズンの最大寒波が到来中ですが、このひめぐり通信が発行されているときには多少でも暖かくなっていることを願います。というのも、梅寿荘デイセンターでは冬の天気には特に注意を払わなければなりません。生駒山の上という立地に加えて、道路もカーブが多くあり、雪が止んでも凍結の危険があります。こういった日には、ご利用者やご家族にはご迷惑をおかけしますが、安全確保の為、営業の中止や早めにご自宅へ送らせて頂くことがあります

のでご協力をお願いいたします。

さて、梅寿荘デイセンターは去年一年間も突っ走ってきました。今年は酉年ですので、飛ぶ酉を落とす勢いで更に前を向いていきたいと思いますが、来年の平成30年には介護保険制度の改正が行われます。入ってくる情報ではご利用者にとっても、事業所にとっても厳しいものが多いように感じます。来年に向けて今年を如何に運営するかが重要だと考えております。ある先生からは、今後の厳しい福祉を生き残る為、勝ち残る為には、職員・人材を確保しきれぬ事業所しか生き残れないとも聞いております。人材は宝だということを忘れずに前を向いていきたいと思っています。

梅寿荘居宅介護支援センター

今までとこれから

事務員 木村 ゆかり

梅寿荘居宅介護支援センター及び梅寿荘デイセンターの事務職員となって早いもので16年になろうとしています。福祉の仕事とは対人援助であり、その援助を行うためにはチームワークが必要不可欠です。それは事務員であっても同様で、予算管理や労務管理といった業務のみならず、ご利用者と直接かかわる機会は多くはなくても、両センター長を中心に、居宅介護支援センターのケアマネージャーやデイセンターの

介護職員のサポートなど、求められる事柄は多岐にわたります。様々なことにアンテナをはり、あんなこともしたいこんなこともしたい!と思いつつも、日々の様々な業務に追われ、あっという間に一年一年が過ぎていきます。

昨年は法人主任研修にも参加させていただき、改めて法人職員の一員としての思いを一層強くしました。研修の課題にもありましたが、「やりがいのある仕事を長く続けられる職場であるために私が出来ることは？」をいま一度考えながら、他職員との情報の共有や連携も大切にしつつ、これからも邁進していきたいと思っています。

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

平成28年度を振り返って

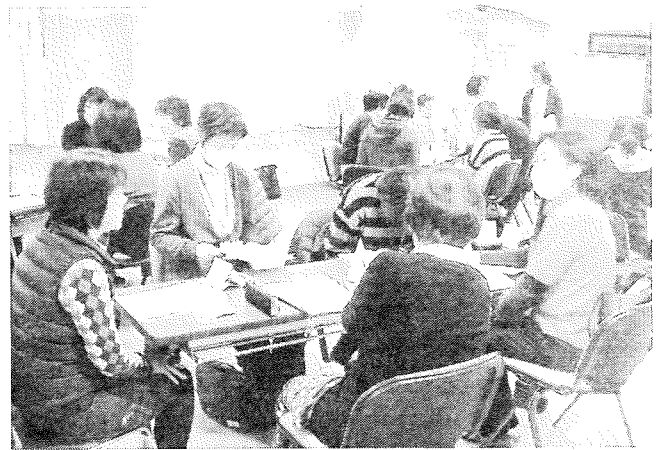
主任介護支援専門員 坂本ひとみ

平成27年10月より生駒市でスタートした介護予防日常生活支援総合事業が円滑に進むよう、事業内容の把握、地域住民や関係機関への啓発、プラン作成等に多くの時間を費やし努力した1年となりました。

全国一律の予防給付を市町村が取り組む地域支援事業に移行し、新たなサービスも加えて多様化を図るということは予想以上に困難を極めたと思います。しかし市役所担当課と市内地域包括支援センター、居宅介護支援事業所やサービス事業者、ボランティア、一般市民の方々と共に知恵を寄せ合って検討の機会をたくさん得ることができました。従来のサービスのみならず、住民が中心となって実施する取り組みも含めた高齢者の支援体制を地域の中に創っていくことが重要な鍵になることを念頭に置きながら業務を行って

きました。

次年度はさらに内容を充実させていかなければなりません。そのために皆様のお力もお借りしてより一層頑張ってお手伝いしていかなければならないと考えています。



生駒市南地区ケアマネ研修会

デイセンター憩の家

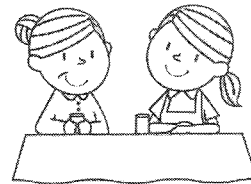
「これまでの積み重ねが大切」

主任生活相談員 友國和之

認知症介護と言うのはご本人の介護のみならず、ご家族の支援も大切なことは以前からお伝えしてきておりますが、デイセンター憩の家では年間4回の家族様を交えた茶話会、ご本人の様子を見ていただく行事などを実施しており、そこには以前ご利用されていたご利用者のご家族もお誘いし、参加していただいております。

ります。

そのこと現在介護のことで悩まれているご利用者のご家族へ経験談をお話ししていただくことで現在の介護されているご家族にとって共感し話しやすい環境ができるなど、憩の家の力になっていただいております。



私自身大きなことができませんが、今取り組んでいる事をコツコツと積み重ねていくことがより良い「憩の家」になっていく事と思います。

あくなみ苑

『一年を振り返って』

介護主任 松村礼子

2016年も残りわずかとなりました。この一年を振り返ってみると、本当に大変な一年でした。そう、今、介護業界は人材不足と言われておりますが、あくなみ苑は今まさにその現状に悩まされており、ゆっくりと御利用者と関わる時間が少なく、日々介護の業務に追われています。しかし、中でも、救われることがあります。御利用者の

笑顔や御利用者からの「ありがとう」という言葉です。その言葉や御利用者の笑顔が見られるように、あくなみ苑の職員はみんな色々悩みながらも、共通して「御利用者のために」と日々奮闘してくれており、そんなあくなみ苑の職員みんなに、私自身もすごく助けられた一年でもありました。

これからも、まだまだ大変な時期が続くことは予想されますが、それでもみんなでお悩みながら頑張ってきた分、きっと良い方向になることを信じて、あくなみ苑の職員一丸となってこの大変な時期を乗り越えていきたいと思っています。

児童施設より

下半期報告

遊楽苑保育園

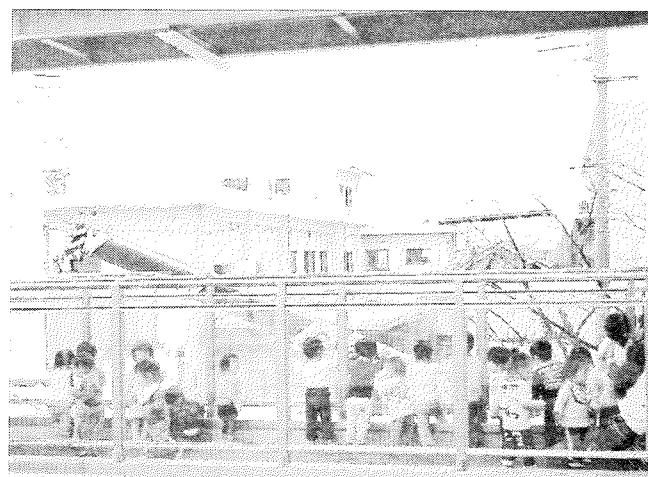
耐震工事が終わりました

保育士 松 久 由美子

12月20日で耐震工事が終了しました。振りかえれば1年前から検討しこども達も保護者も安心して安全に生活が送れるか試行錯誤を繰り返し、体制を整えながら乗り越え無事に過ごせたことを安堵しています。

乳児が幼児の保育室で過ごすことで安全な環境作りを工夫し、遊びの部屋とランチルームと称した食事をする部屋と分けました。そのため保育室を移動するという活動が増えることになりましたが、こども達にとっては移動も遊びのひとつになっていました。

環境が変わっても戸惑いもなく、すんなりと慣れることができたこどもの順応性には驚かされます。窓から見える車を見たり、ホールで食事をしている青、黄組に手を振ったり、トイレに来る赤組と笑いあったりと



新しくなった渡り廊下から

毎日の風景に発見や楽しみを見つけていました。

長年勤めている私も初めての飛鳥幼稚園への散歩は画期的な出来事でした。この交流を機に幼稚園のこどもが「おーい、また来てね」と手を振ってくれています。

また、耐震工事を無事に終えるという職員が共通の目的意識を持つことで一体感ができ、お互いに助け合い意見を出し合うなどの相乗効果にも繋がったと思います。

何より保護者の協力なくしてはなしえなかったことであり、感謝の気持ちを込めこの4ヵ月体験したことや経験を遊びや生活に活かし、より一層安全に過ごせるようにしたいです。

あすかの保育園

「のの様に見守られて」

主任保育士 小 林 美 香

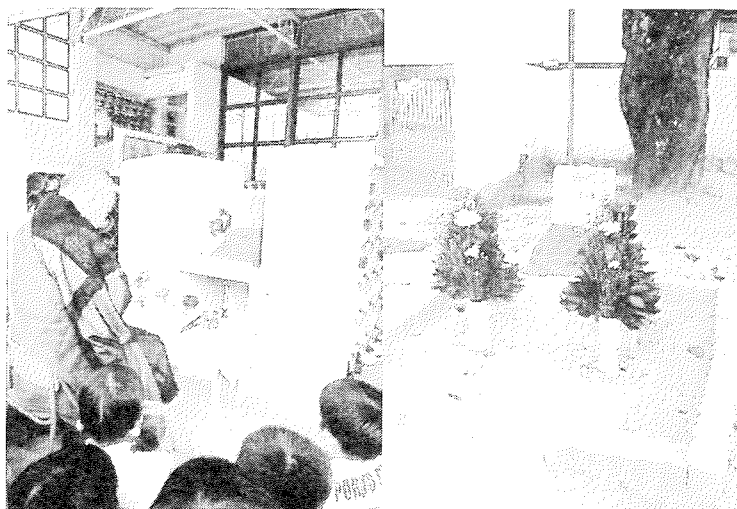
「子守地蔵」としてあすかの保育園が開園してから今まで、プラザ（昇降口）の入り口で私たちを静かに見守って下さっていた「ののさま」を、昨夏のプラザ工事に伴い、園庭のシンボルでもある正門横の桜の木の南側にお移しました。

子どもたちは毎朝登園したときに、手を合わせて「ののさまおはよう！」と声をかけたり、お散歩に行くときにも「ののさま」のお顔を見て手を合わたりすることができるようになりました。

また散歩先での野の花や、木の実をお供えしたりしています。乳児さんも最初は「何かな？」と不思議そうに見ていたのですが、「みんなの事をみまもってくれている、ののさまやで」と伝えていく事で、「まんまんちゃん。あん。」と手を合わせる姿も見られます。

そして保護者の方も毎朝夕、目にする事で、「ののさま」を身近に感じて下さっているようです。

「ののさま」が園庭で私たちを見守って下ることで、今まで以上に親しみをもつようになりました。心なしか「ののさま」も園庭で元気に遊んでいる子ども達の姿をまじかに見て、更に笑顔になられたように思えます。「ののさま」これからも私たちを優しく見守ってください。



園庭でほほ笑むののさま

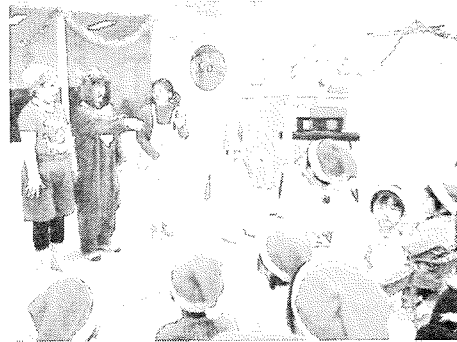
児童発達支援 いっぼ

「羽ばたく酉年になる！」

児童発達支援管理責任者 長野 智子

毎回、人事考課の時期に、パートの保育士にも面談を行っています。今年度はいつ聞いても大体、楽しく仕事が出来ている、安定している、もっと〇〇出来るようになりたい、と言って下さり、こちらも安心と同時に、嬉しくなります。正規の保育士は、安心して仕事出来る+いつも自分を向上させなければと語ってくれ、これもまた、感謝、そしてその言葉に自分も刺激を受けます。いっぼは創立5年が経ち、今、尚、この

職員の皆さんに支えてもらってる施設だと実感しています。来年は酉年。大きな、ホットな心を持つ職員みんなが、時には親鳥になり、巣立つ親子、いっぼにた



クリスマス会の大きなかぶ！

どり着いてくれた親子を見守り、寄り添い、自分自身も高く羽ばたいていける、1年になってほしいと、強く願っています。

こども支援センターあずさ

漠然とした不安

漠然とした不安を感じる職員

午後8時、9時になっても灯りがついている事があり、それでも「今日はまだ早い方です」という他法人の事業所職員さんの声を聞くことがあります。政府の働き方改革の課題のひとつである長時間労働が問題化して久しいですが、今年を振り返ってみると、あずさ職員の個々の仕事の質は程ほどに高く、チームとして一定以上の成果は上がっているように思われます。

ただし、労働時間に関しては改善すべき余地、改善しなければならない対応が山積みのようにあります。本来、残業は手続きをとって、業務命令として勤務を

行い、それに係る時間外手当を支給するものですが、なかなかそのようにもなっていません。所定時間内で効率よく仕事をこなすにも、仕事量が多く、どうしても時間外が発生してしまう現実があります。ノー残業デーや定時退社日を設定しても、仕事を家に持ち帰るだけで、かえって負担となっている職員もいるようです。長時間労働や職場の人間関係など諸々が原因となって、健康を害する人達の存在は珍しくありません。

人を多く採用して仕事量を分散させ、効率良く働ける環境を整えればいいのでしょうか。そこにはお金も不可欠ですが、もっと大切なものがあるような気がします。

具体的な一歩を進める為にも本気でひとりひとりの知恵を絞り出す時のように思います。

愛染寮

「元気の源は子ども達にあり」

～地域小規模愛染寮あずさだより

保育士 廣岡 由香理

あずさは平成21年の春に立ち上がり、9年目を迎えようとしています。私自身は一ムの担当になり2年目となりました。また、今年度はホームリーダーになりあずさホームを引っ張っていく立場にもなりました。現在、あずさホームには、高校1年生、高校受験を控えた中学3年生、小学生と様々な年齢の子が生活しています。新たな友人関係の中で楽しい高校生活を送る子、その姿を見て自分も楽しい高校生活を送りたいと日々目標に向かって勉強を頑張る子。子ども達は日々自分の目標に向かって頑張っています。私自身も、リーダー1年目ということもあり目の前のことに追われ、周

りが見えていないことも多々ありました。ある日、小学生の子が何気なく「今日の夕日めっちゃ綺麗な。一緒に見よう。」と声をかけてくれました。本体施設とはまた違う、独特の時の流れがここにはある一そんな風にふと感じた気がしました。いつも子ども達の言葉や行動に元気をもらっています。慌ただしく流れる日々の中でも、ふと立ち止まった周りを見ることの大切さを気づかされました。笑顔があふれる春をみんなで見守っていきたくて、子ども達の成長を見守っていきたくて、



ごはん作り楽しいね！

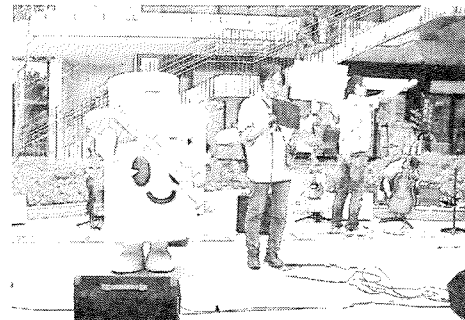
奈良県後援障害者支援センター「でいあー」

今年度の振り返り

主任 大西 和幸

今年度の「でいあー」は、相談業務以外での活動を積極的に行ったため、例年と比べると特に慌ただしい一年でした。もっとも大変だったのが、4月に実施しました初めての取り組みである自閉症啓発デー&発達障害啓発週間のイベントでした。昨年までは関連事業として講演会を実施するのみでしたが、広く一般の方にも発達障害について興味を持ってもらえるようにと、啓発イベント（ベルテラスいこま・大和郡山市民交流館）やパネル展示（県立図書情報館・イオンモール郡山）を行いました。関係機関や団体の方々にもたくさん助けて頂き無事に終わることができましたが、準備段階から実施までの間に、これまで関わったことがなかった人との交流が生まれたことも一つの収穫でした。活

動についての大きな反響はなかったものの、イベント中に通りがかりの人が質問してくれたり、一緒に参加した保護者の方が楽しんでくれていたり、相談の方がパネル展示を偶然見かけたらしく「テンション上がりました!」と喜んでもらえたりしたことが印象的でした。このような地道な活動を続けて行うことで、少しでも理解が広がり、発達障害の方やそのご家族が生きやすい社会を作れたらと思います。



4月2日ベルテラスいこまにて

平城児童センター

「そうめん手延べ体験!!」

センター長 徂徠 おさむ

10月23日にそうめん発祥の地と言われる、桜井市三輪の麺ゆう館でずっと変わらずに伝承されている「手延べ技法」を体験しました。

最初にそうめんの製造工程のビデオを見ましたが、丁寧なそうめんの作り方や細さには驚かされました。

まず最初に職員の方に見本を見せていただいた後に、4人ずつ体験することになりました。

手延べをするときは専用の機を使います。最初はかなり太い麺でしたが、それをゆっくりと横に伸ばし、切れないように気をつけながらまた伸ばしてを繰り返して行いました。最初は恐る恐る伸ばしていましたが、次第に上手く伸ばせるようになりました。横に伸ばした後は縦に伸ばし、長く伸びると次に大きな箸でくっついている麺をゆっくり、ゆっくりと伸ばしながらほぐしていると細長い素麺が出来上がりました。

最後に職員の方が打ち粉をされた後に袋詰めをしてもらい、なかなか食べる機会のない出来立ての生の素麺を持帰り、家庭でおいしくいただきました。

いこま保育園

「あたらしくなりました」

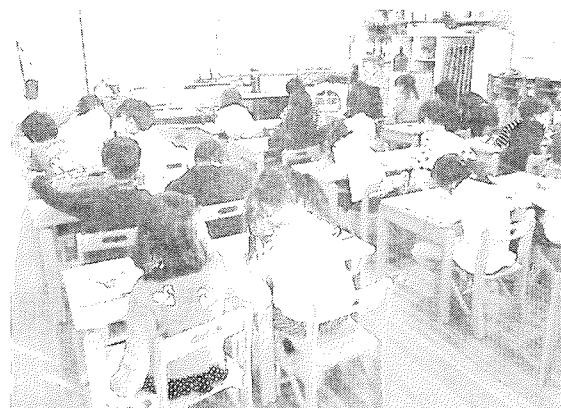
保育士 辰己 章子

今年度から乳児クラスに、ひよこ組（零歳児）りす組（1歳児）ばんび組（1歳児・2歳児混合）に加え、新しく「きりん組」(2歳児)ができ、年度の途中でも1歳児と2歳児の成長に合わせてクラス変更を行い、柔軟に対応できるようになりました。はじめは大人も子ども達も、新しいクラスができたことで戸惑うところもありましたが、今ではすっかりきりん組になじんでいます。

また、年長である青組には就学に向けての環境づくりの一環として、秋より個別の机を導入しました。子ども達は自分の机と椅子を与えられたことで、クレパスやのりなどを机の中に入れ、ちょっとした宝物入れのようにしています。机を使う楽しみができ、机の

移動や片付けを積極的に手伝うようになってきています。さらに最近では、大きなホワイトボードに日付や当番、予定などを書き込むようにし、小学校をイメージできるような取り組みも行っています。

子ども達と共に楽しみながら新しい取り組みをしっかりと生かし、日々の保育をより充実したものにしていきたいと思っています。



学校みたいなのしいね

いこま乳児保育園

「巣立ち」

保育士 龍 田 千 夏

今年度の保育も残りわずかとなりました。しばらく0歳児クラスの担任が続いていましたが、今年度は2才児の担任をすることになり、毎日元気に走り回る子どもたちからパワーをもらっています。

乳児保育園では2才児クラスが卒園となり、他園の卒園児同様のあわただしい日々を過ごしています。赤ちゃんのころから一緒に過ごし、歩き出す瞬間を見たり、散歩での四季の移り変わりを感じたり、片言の言

葉から会話ができるようになり、友達とケンカをして仲直りが出来るようになった姿を見ながら、子どもたちの成長をうれしく思う反面、別れへのさみしさを感じています。卒園後は、いこま保育園へ進級する子他園や幼稚園に行く子など、それぞれです。

乳児期の一番大事な時期に出会った人とのつながりは、子どもにとっても保護者にとっても宝ものです。その中で、保育士として共感したり、相談したりしながら、共に成長を見守り喜び合えたことをうれしく思います。卒園までのラストスパートをみんなで乗り切りながら、一日一日を大切に子どもたちと毎日笑いながら過ごしていきたいと思います。

児童発達支援センター 仔鹿園

「やっぱり 仔鹿園」

主任 稲 田 桂 子

園門に続く坂道が淡いピンクに染まる季節、22名の新入園児と3人の新人職員を迎えスタートした28年度。

厨房とトイレの改修工事を終え、その場所だけ別世界です。



安心して気持ち良く

トイレには多目的トイレに加えてオムツ交換台と赤ちゃんシートが設置され、母子で利用がしやすくなりました。

夏は天候に恵まれて例年よりもプールに入れる日

が多く、子どもたちの歓声は蝉にも負けない程でした。

運動会では今年も多くボランティアの方に手伝って頂き、競技の中で一人一人の成長を皆で喜び合いました。昨年、保護者アンケートで頂いたご意見を参考にさつきの植え込みを一部刈込、緑の回廊のような通路を作り、その結果、子どもの活躍を今までとは違った角度で見る事が出来たと思います。運動会を境に子ども達はぐんぐん成長し、様々な実りを保護者の方と共に喜び、さらなる成長・発達の為のアプローチを確認し合いました。

クリスマス会は仔鹿園の伝統を守り？親子のスキンシップも意識した音楽療法・爆笑・美味しい給食で締めくくられました。

開園から久しい年月が流れ、建物の老朽化は否めませんが、仔鹿園開園当時の熱く深い想いや先輩の先生方が大切にされてきたものは今の私達に老朽化することなく受け継がれていると信じています。

いこま乳児院

よりよい環境づくりを目指して

主任看護師 関 口 直 見

昨年は、新しい建物に引っ越してきて初めて、子どもたち全員が元気で新年を迎えることができた年でした。また、乳児の入所が多く目まぐるしい1年でもありました。

乳児院の入所可能年齢は、0ヶ月～小学校就学前です。近年は、乳児の入所が多く3～4歳前で措置変更を考えなければなりません。低年齢化した乳児院で、どのような養育をしていくかが課題となっています。

1歳児以上の児には、巣作りルームの環境を整え定着化してきました。8月に受けた第三者評価では、『個』を大切にできる空間づくりが良いと評価して頂きました。

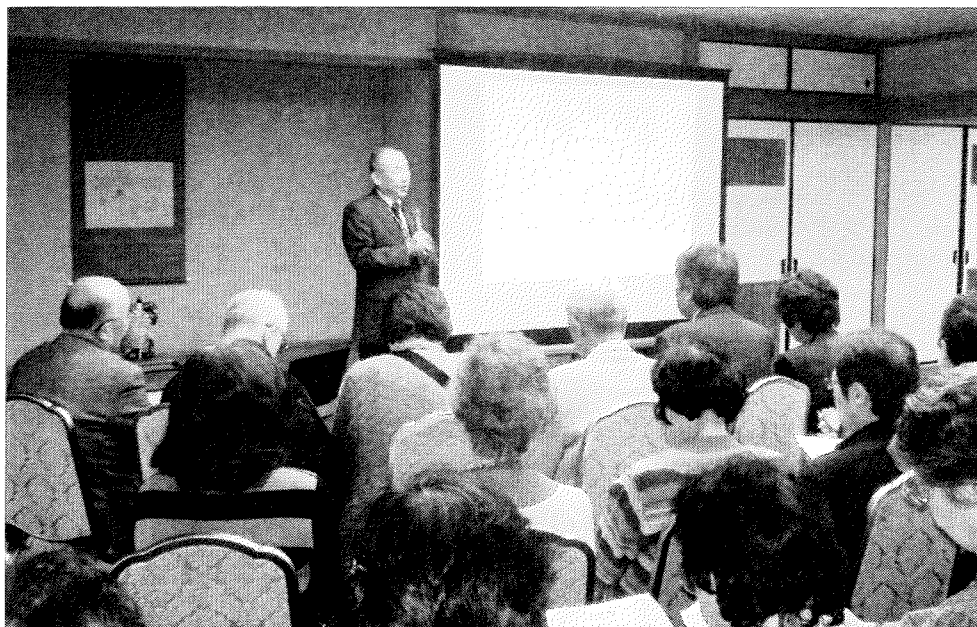
10月頃から、0歳児のお部屋にも巣作りを始めるようになりました。子ども一人一人の動きに合った環境を整えることは容易ではありません。限られた空間をどのように使うか、玩具の消毒はどうしていくのかなど課題はたくさんあります。

今年も、子ども達が満足して遊べる環境づくりを職員一同頑張っていきたいと思います。

高
齢
者
部
門ボランティ
ア
懇親会報告

●梅寿荘 主任生活相談員

今井康順



高齢者部門では、梅寿荘をはじめ、延寿、各デイセンター、あずさのそれぞれの施設で、ボランティア活動を行って頂いております。活動の内容としましては、歌や踊りなどの催し物を開催して頂いたり、施設の中でも、お茶やおやつをご入居者に楽しんで頂けるように喫茶店を開いて頂いたり、ここでは紹介しきれないほど多岐にわたった活動をして頂いております。職員だけでは補えない部分を支えて頂いていることで、ご利用者の生活が豊かになっております。

ボランティア活動の歴史も長く、梅寿荘の創設時より関わって頂いており、活動歴は四十年を超える方もいらっしゃいます。日頃より法人を支援して下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。

年に一度ではありませんが、ボランティアの皆様にお集まり頂き、懇親会を開かせて頂いております。昨年十一月二十四日に、菊水楼で開催致しましたので、ご報告させていただきます。

毎年、午前中に記念講演を企画し、午後からは懇親会の流れになっており、日頃の疲れを癒して頂き、法人職員やボランティア相互の親睦をはかり、友好を

深めることを目的としております。

記念講演では、昭和二十一年十月に滝寺境内に創設された児童養護施設・愛染寮が、今年七十周年を迎えたこともあり、辻村理事長より「七十周年の歩み」を講演させて頂きました。白黒の歴史を感じる写真を見ながら、昔を懐かしみ、法人の歴史を知って頂けたのではないかと思います。

午後からの懇親会では、支援団体である親和会の速水会長からのご挨拶、法人役員の安井理事によるボランティアの方々への応援メッセージを頂きました。

懇親会の中で、ボランティアの方々との交流を持てたことで、活動への想いや活動をさらに良くするための改善策など、直接ご入居者の生活に関わっておられるからこそその視点をお聞きすることができ、たいへん有意義な時間となりました。

また、梅寿荘の小林より、熊本震災支援を報告させて頂きました。昨年七月に熊本県益城町にある養護老人ホームへ介護職員の応援派遣として行かせて頂いた時の、震災の現状や現場体験をして感じた必要とする支援などを報告させて頂きました。

そして、ボランティア活動の紹介を、事前に用意したスライド写真で、四十四年のボランティア活動を紹介させて頂き、歴史と様々な活動を知って頂きました。

八十名以上のボランティアの方の出席があり、大変多くの方にお集まり頂きましたことをお礼申し上げます。

また、ご参加頂けなかったボランティアの皆様には、紙面を借りて日頃の活動への感謝をお伝えしたいと思います。

今後ともご支援の程、宜しくお願い致します。



法人主任研修

第2回 2016.10.18(火)
第3回 2016.11.28(月)

法人主催の主任研修、前号では第1回の様子をお伝えしました。
今号では、第2回・第3回の様子をお伝えします。今年度の主任研修のテーマは、「メンタルケア—やりがいのある仕事を長く続けられる職場であるために—」です。

●人事・研修部長
辻村 泰 聡

第2回

「メンタルヘルス」

株式会社インソースから河野貴久代先生を講師にお招きして、メンタルヘルスについて研修を行っていただきました。

ストレスの発生要因や対処方法を学び、ストレスとの上手な付き合い方を考えていきました。個人としてのストレスの対処方法を知った上で（セルフケア）、部下のストレスに気づくためのポイントを学び、職場組織としてどのような対応ができるか（ラインケア）について学びました。

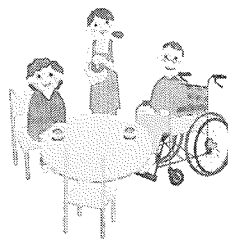


第3回

「福祉の制度と最新トピックス」

私たち福祉を取り巻く制度は日々変わってきていますが、普段従事している分野以外のこととなると、なかなか情報を得る機会も多くないのが現状です。

主任研修の機会に、法人の各分野の施設長から、制度や最新情報について講義していただきました。



「みらいづくり

ワールドカフェ

in 宝山寺福祉事業団」

3回にわたる主任研修の締めくくりとして、参加者同士の情報交換を兼ねて、ワールドカフェ形式のワークを行いました。

ワールドカフェ形式とは、カフェのような雰囲気の中で、参加者同士が自由に1つのテーマについて語り合い、席替えを繰り返すことで全員と対話したかのような効果のある方法です。「長く働き続けられる職場とは？」というテーマで、これまでの研修を振り返りながら、和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われました。



福祉避難所体験会を開催しました

●梅寿荘 特養次長・養護施設長 松岡利和

法人では生駒市との協定で、災害時に福祉避難所として使用できる施設を取り決めていきます。梅寿荘がその一つですが、このことは一般にはあまり知られていません。福祉避難所は災害時に、必要に応じて市の判断で開設し、避難者の選定がおこなわれるもので



す。また、物資の供給や人手の手配なども市が主導しておこないます。施設が独自に開設し、運営するものではありません。しかし、一方で福祉避難所がどこにあるのか、事前に知っておかないと、いざという時にそこに行けないという懸念があります。また、色々な災害を想定してみると災害直後の緊急な避難場所としての存在意義も大きいかと思えます。

平成28年の熊本地震で、梅寿荘は現地の福祉施設に応援職員の派遣をおこないました。そこでは福祉避難所が実際に開設されていました。詳細は前回誌面で紹介しましたので割愛しますが、実際の現場の情報を持ち帰り、こ



とさら「ここが安全な場所」ということを周知しなければ、という意識を高めたのです。

梅寿荘がある門前町の自治会長に相談し、何とか町内の方に参加してもらおうよう働きかけました。また、せっかく時間をとってもらっているので有意義な内容にしたいという考えもあり、地域包括支援センターと共同して「徘徊高齢者模擬訓練」を実施し、その続きで「福祉避難所体験会」を企画しました。

平成28年11月23日に当日を迎えました。施設にある備蓄食料の展示と試食、発電機や釜の試用、AEDや担架の説明など災害時に想定される用品を手にとつて使ってみてもらいました。民生委員などの自治会役員の方々、一般住民の方、地域を担当するケアマネージャーなど30名余りの方に参加いただきました。「自治会で購入する備品の参考になる」という声や、「発電機の使い方は、簡条書きで本体に貼つけておくと誰でも操作しやすいな」というアイデアをいただき、災害に対する意識を高め合うことができました。「ここに来ればこういう道具がある」という基本的な情報提供ができたように思います。

当日は体験会の準備として、災害用に購入しているテントを職員で組み立てましたが、購入後初めて使ったため、組み立てに少し手間取りました。初めて封を開けた釜は、後になって



セットの部品が倉庫に残ったままだったことに気づきました。我々施設職員にとつても災害用品を取り扱う訓練として有効だったと感じます。

人は経験したことは身に付くものですが、知識として『知っている』だけでは、いざその場面になっても、なかなか上手くできません。訓練・経験という、積み重ねた『引き出し』があつてこそ、突発的な出来事にも何とか対応できるものです。地域の方に避難場所に来てもらい、災害用品を扱う経験を積んでもらうことで、災害時にまず住民自身が最善の行動ができるよう取り組みを考えていきたいと思えます。

福祉避難所とは

高齢者、障害者、妊産婦、病者など、一般的な避難所では生活に支障をきたす人たちのために、特別な配慮がされた避難所です。福祉施設などが指定されます。

平成28年度
法人永年勤続表彰

- 伊藤 智宣
（デイセンター・寿楽・センター長・20年）
- 西 駒 貴
（梅寿荘・介護職員・20年）
- 井元 絵里
（こども支援センター・あすなろ 保育士・20年）
- 樋高 智代
（こども支援センター・あすなろ 保育士・20年）
- 藪下 幸也
（延寿・介護職員・20年）
- 川崎 香織
（あすかの保育園・保育士・25年）
- 米田 惠美子
（いこま保育園・園長・25年）
- 岩本 登美子
（あすかの保育園・園長・25年）
- 中尾 智子
（愛染寮・主任保育士・30年）
- 小田 朝美
（いこま乳児保育園・保育士・30年）
- 末松 保喜
（愛染寮・寮長・35年）
- 松村 善子
（極楽坊保育園・園長・35年）
- 家治 圭子
（いこま乳児保育園・園長・40年）

全国レベル表彰受賞

- 厚生労働大臣表彰
中尾 智子
（愛染寮・主任保育士）
- 厚生労働大臣表彰
山下 ふじみ
（愛染寮・非常勤調理師）
- 全国保育協議会厚生労働大臣感謝状
前田 紀美子
（極楽坊保育園・副主任保育士）
- 全国社会福祉協議会会長表彰
谷口 圭永子
（こども支援センター・あすなろ・相談支援専門員）
- 全国社会福祉協議会会長表彰
前田 紀美子
（極楽坊保育園・副主任保育士）
- 全国老人福祉施設協議会感謝状
津田 光永
（特別養護老人ホーム延寿・介護主任）
- 全国老人福祉施設協議会感謝状
大崎 万季
（特別養護老人ホーム延寿・介護支援専門員）
- 全国老人福祉施設協議会感謝状
井上 貴至
（デイセンター延寿・主任生活相談員）

- 全国老人福祉施設協議会感謝状
中島 扶美代
（居宅介護支援センター延寿・介護支援専門員）
- 全国老人福祉施設協議会感謝状
中本 良一
（ケアハウス延寿・介護職員）
- 全国老人福祉施設協議会感謝状
山内 多恵
（ケアハウス延寿・経理主任）
- 全国老人福祉施設協議会感謝状
中井 基行
（特別養護老人ホーム梅寿荘・介護職員）
- 全国老人福祉施設協議会感謝状
山本 節子
（特別養護老人ホーム梅寿荘・経理主任）
- 全国老人福祉施設協議会表彰
西 駒 貴
（特別養護老人ホーム梅寿荘・介護職員）
- 日本保育協会会長表彰
松村 善子
（極楽坊保育園・園長）
- 日本保育協会会長表彰
岩本 登美子
（あすかの保育園・園長）
- 日本保育協会会長表彰
川崎 香織
（あすかの保育園・保育士）

編集後記

梅の便りが届き、桜の木やチューリップの芽がずいぶん膨らんでいるのに気がきました。少しずつですが、春の足音が聞こえてきたように感じます。
法人70周年式典、第20回法人発表会を終え、ひめゆり通信150号を皆様のもとにお届けすることになりました。節目の時を迎えて職員一同新たな気持ちをもって、春を迎えたいと思います。（松村）